

世界クロエ地回等について(民族服重量と気候のかゝわり)

県立豊岡高等学校〇河島陽子

共立女子大学家政学部 神山恵三

目的 気候とは、一年を通じた大気の状態であり、それぞれの土地に特有のものである。地球上は、多様な気候である。各民族の服装と、気候という自然条件とが、どの様にかかわっているか。被服の機能には、保護作用、例えば、熱的、力学的、化学的、生物的侵襲より体を保護する機能と、識別機能、例えば、性別、身分階級、年令、職業、民族、宗教、etc., といった機能がある。ここでは、現存する民族衣服を選んで写真と写し、秤量し、主に熱的保護の立場から、向気候的であるか、又、保護機能と識別機能が、どの様に表出されているか、見ようとした。

研究方法 ① 世界各地において、“必要とされる被服の熱抵抗Clo 値”を求め、“世界の等Clo 地回”を作った。

② 国立民族学博物館へ出向し、できるだけ多くの民族衣服を秤量した。

③ 調査した民族衣服の現地の気候から、“必要Clo 値”と、Clo 値は、その衣服がとれた場所の気象DATA 或いは、“世界の等Clo 地回”から内そうして求めた。

④ 被服の重量と必要とされるクロ値の関係から、気候と衣服の関連性を考えた。

⑤ 関連性から離れた衣服について、若干の考察をこころみた。

⑥ 下着については、全部一様とみなした。

結論 気候的必要とされるClo値と民族衣服との間に、(特に天然繊維の物について)より相関があること。又、この相関より離脱しているものは、より識別機能が大きい被服であること、新しい民族服は、より軽量になっていることがわかった。